



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の現状と対策

ここ数日間で感染伝播経路が明らかではない症例の報告が相次いできました。現状起こっていることを正確に表現すると、感染伝播経路が見えていない感染症例が多数発生しており、その見つかった患者さんを端緒として、それに関連した感染者もその後発見されているということです。これは単に感染経路が見えていなかっただけのこともあり、東京都の事例のように積極的な疫学調査によって、その感染伝播経路が明らかになるものもありますが、もちろん、調査によっても依然として不明であるものもあります。

今回の新型コロナウイルス感染症では、これまでのクルーズシップや帰国便の方々の事例でも明らかになっているように軽症例、そして無症候性感染例が明らかに存在します。そして、東京都の新年会を発端としたアウトブレイク例からもみてとれるように、少なくとも新年会に出席できる程度に軽い症状の方からの感染があるということになります。症状の無い無症候性感染者の感染性についてはまだよくわかっていませんが、このように考えると、軽症の人からひそかに感染が広がっているという可能性もあります。

今後は、このような地域内感染伝播を考えた対策にシフトしていかなければなりません。一方では、この地域内感染伝播の密度というものは、日本中同じではありません。おそらく、現時点ではもっとも蔓延していると考えられる地域であっても、まだ網目のような地域内感染伝播鎖が樹立されているところまでは行ってないと思います。必要なことは、やたら恐れることではなく、このような眼にみえない感染伝播鎖が、どのくらい樹立されている状況であるかということの評価することによって、日本中何処でも地域内感染伝播があるという状況になっているとは言えないと思います。

現在、三重県では、医師が新型コロナウイルス感染症を疑った症例について積極的に検査されています。これまでのところ、2月20日時点で30例の検査が行われていますが、陽性は最初の渡航歴のある症例1例のみで、その後の渡航歴のない、接触歴が不明な症例ではすべて陰性です(https://www.pref.mie.lg.jp/YAKUMUS/HP/m0068000071_00005.htm)。つまり、現在三重県では、原因不明の肺炎があったとしても、新型コロナウイルス感染症は、それらの方たちからは見つかっていないということに

なります。

厚生労働省、地方自治体は、現在これらの判別できなくなっている感染伝播鎖を調査して解きほぐし、濃厚接触者を探し出して、彼らの発症を早期に探知して、そこからの新たな感染伝播鎖を防ごうという活動をしています。これによって、地域での感染伝播鎖の樹立を少しでも遅らせることにつながります。地域に広がるというのは、ウイルスの性質に寄るところが大きいので、これを完全に防止することは難しいと思いますが、少なくとも、我々は拡大を少しでも遅らせることによって、可能な限り日本における被害を少なくすることができるのです。

また、中国でこれまでの患者44,672例を解析したデータでは、軽症例は80.9%、重症は13.8%、危機的な状況になるのは4.7%で、致死率は全体で2.3%と報告されています。これは年齢や基礎疾患によって大きく異なり、20歳台以下では0.2%ですが、60歳台になると3.6%、70歳台で8.0%、80歳以上では14.8%となります。つまり、多くの人は軽い症状でそのまま治癒しているということです。

現在必要なことは、新型コロナウイルス感染かも知れないと心配して病院に行き検査を依頼することではありません。こういう状況では、やたらに医療機関を受診すると、医療機関は軽症で不安な患者であふれることになり、本当に必要な重症の患者さんの治療を行うことができなくなってしまう。また、医療機関には、実際に症状の重い人が来院されますので、その中には新型コロナウイルス感染症の方もみえるかもしれません。軽い症状で病院に行き、そこで新型コロナウイルスに感染すれば、自分は感染することはもとより、家族や周辺の方たちにも患者を増やすことになり、ひいては、医療機関の破綻や社会の機能不全に陥ります。現在、一番大事なことは、日本国民すべてで、現状を認識して、それぞれが何を行い、何を行うべきでないかを考えることです。

今般、政府からも基本方針が公開されていますが、風邪や発熱などの軽い症状が出た場合には、外出をせず、他のヒトに感染させないということも考えて、自宅で療養してください。ただし、風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いていたり、強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある場合には、決して我慢することなく、直ちに都道府県に設置されている「帰国者・接触者相談セ